

子どもの「やりたい！」を形にできる居場所づくり

(担当：子ども家庭部子育て支援課 小川町二丁目児童館)

事業の背景・目的

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、子ども達は大人の定めた様々なルールに従っての利用が求められる状況であった。行事の自粛や活動の制限がある中、児童館の大きな目的の一つである「子どもの主体性や意見を尊重した活動」を実行に移しにくい環境であった。

職員としても、利用ルールに則った安心安全な居場所の提供、子ども達の主体性を大切にする居場所づくり、この2つのテーマの間で悩みながらの運営であった。しかし、感染症ルールの中であっても、子ども達の「やってみたい」という思いをできる限り尊重することを大切にしたい。

感染症対策による制限の中で、「あれもダメこれもダメ」ではなく、「こうやったらできるかもしれない」「どうやったらできるようになるだろう」という意識を職員にもたせる事は、今後の通常時の児童館運営にも生かせるものであるため、行事だけではない経験を積めるチャンスであると考えた。

事業の概要

行事が制限される中であったので、具体的な行事実施といったわけではないが、最終的に形として出来上がったものが、小学校6年生による「お楽しみ発表会」である。コロナ禍になってからの1年間を通し、思い出となるはずの行事が軒並み中止となる中、児童館でならできると思って、この児童が相談してくれたのがきっかけであった。

企画から内容、進行に至るまで全て来館していた6年生によるアイデアで準備を進めた。職員はそれに対し、環境設定や必要物品の準備、進行の上でのアドバイスをした程度であった。

内容は漫才、クイズ大会、ものまねなど子ども達が用意した出し物を発表するというもので、特別申込などはせずに来館をしている利用者向けに実施した。

・実施場所

遊戯室 感染症対策のためスペースを確保するため一番大きな部屋での実施。

・職員体制

職員は簡単なサポートのみなので、通常時の勤務体制と同じ。

・準備・計画

1回の利用を1時間と制限しての開館のため、準備・計画をする時間が限られる中実施した。



打合せの様子



プロレスものまねの様子

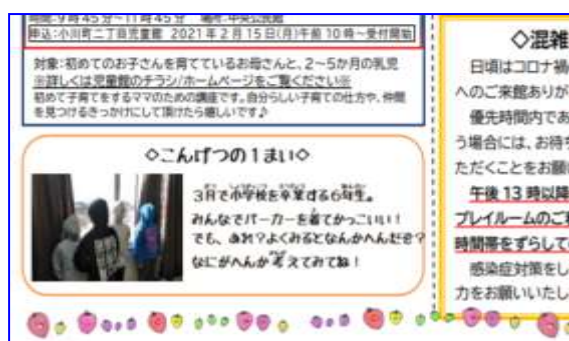
工夫点・留意点

今回の活動において3点のポイントを大切にした。

- ・職員への意識づけ（子どもを受け入れる、意見を大切にする、子どもへの声掛け）
- ・「やってみたい」の声があった時に実現するためにはどうすればいいのかを子どもと一緒に考える
- ・児童館が子ども達の思いを実現することができる場であると示していく

●今回の「お楽しみ発表会」が実現する過程において大きなきっかけとして以下の事例があった。

小学生からおたよりに、クイズとして自分たちの写真をのせて欲しいとの要望があった。それを聞いた職員がどのように形にできるかを検討し実際のおたよりに掲載した。⇒子ども達に「児童館でならできるかも」が芽生えた。これをきっかけにやってみるに繋がっていった。



事業の効果

- ・最高学年の6年生が形にしたことで、他の子ども達にも「やってみよう」の気持ちが伝染していった。
- ・子どもだけでなく、コロナ禍での特殊な運営で経験を積みづらい職員たちにも児童館だからこそできる活動の可能性を示すことができ、モチベーションに繋がった。
- ・子ども達が自分たちでやり遂げたという成功体験から、翌年度、中学生になってからの継続的な来館にも繋がっている。現在も「児童館でプラモデルを作りたい」という思いから、児童館の活動にしていけるよう職員と検討をしている。

課題・今後の展開

今回のような活動が更に広がっていくよう、具体的な活動として形にしていきたい。しかし、形式化することで、子ども達独自の自由な発想が損なわれてしまう懸念もあるので、「子ども会議」などで子ども達の意見も取り入れながら検討をすすめたい。

小学生だけの活動とならぬよう、中高生とのロビーワークを大切にすることで、中高生にとっても児童館で何かチャレンジしてみるという気持ちに繋げていきたい。